

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7番50号
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の心理症状が無くなり、穏やかに落ち着いてのんびりと暮らせる施設作り心掛けています。利用者様の残存能力を活かし、出来る事は自分で行ない、出来ない所の部分だけをお手伝いをしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「ふつうのことを、ふつうに」をモットーに、利用者の思いを尊重しながら、利用者の出来ないことを手伝う支援をしている。また、ホームは小学生が訪れて利用者とは過ごしたり、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの夏祭りに婦人会が参加して共に楽しんだり、時には利用者が公民館活動や小・中学校の行事に参加する等、地域交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏名 黒瀬 俊三

評価完了日 22 年 7 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) その人らしい暮らしをありのまま受け入れる様、毎日皆で実践し理念を共有している。	
			(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく、ふつうに暮らせることを支える理念である。管理者と職員は、理念をホーム内に掲げて共有し、「ふつうのことがふつうにできる」をモットーに、日々の生活を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域に住んでいる職員を採用しその家族や近所の方たちとの交流がある。	
			(外部評価) 小学生が立ち寄り利用者と話をしたり、中学生が職場体験で訪れたり、ホームの夏祭りに婦人会の方が協力してくれる等の関係が出来ている。そして、利用者は地元の小・中学校の行事や公民館活動に参加する等、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の民生委員さんや公民館の方たちと連絡を取りながら認知症の理解に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議の中で情報収集や話し合いを行ないサービスの向上を目指している。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回、開催されている。ホームは行事や利用者の状況、職員の取り組み等を報告し、質問や意見が出されている。市の職員や民生委員からは介護や地域に関する情報が提供されている。会議での意見や情報をサービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村や地域包括支援センターの職員と連携を取りながらサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 管理者は利用者の手続きや申請で日常的に市に出向き、担当者と連絡を取り合っている。ホームの実情を伝えながら、相談に乗ってもらう等の関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 安全面を優先し玄関や入り口の施錠はやむを得ずしている。	
			(外部評価) 近くに道路や池があり利用者の安全を確保するため、やむを得ず玄関を施錠している。ベッドを柵で囲んだり、車椅子からの立ち上がりを阻止する等の拘束はしていない。職員は月2回のミーティングや毎月の研修会で拘束をしないケアについて話し合い、学びあっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴介助の際に身体の確認を行ない、気を付けている。 ミーティング時に虐待の防止について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において話し合いの場を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をして疑問な所があれば再度詳しく説明をする。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来園や面会に来られたご家族とお話し合いや説明をし要望を聞いてその要望や意見を反映させている。 (外部評価) 利用者の要望は日常生活の中で聴いたり、察知することで把握し、家族の意見は来訪時や職員から利用者の状況を家族に報告する時等に掌握し運営に反映させている。苦情相談の窓口は内部と外部に分けて関係書類に明記し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の業務の中で職員からの要望があれば取り入れて実践している。 (外部評価) 職員は日々の業務の中、ケアに関する事、物品関連、勤務に関する事等の提案を行い、代表者や管理者はそれらの意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一生懸命努力している者には、やりがいが持てる様、賞与などに反映させている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設外研修を受ける時は有休とし、安心して研修が受けられる様に配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 夏祭りを通じて交流したり勉強会に参加したりしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 認知症の心理的症状を積極的傾聴により把握し、どのように対応して行けば良いか検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族さんの困っている事、心配事の内容を良くお聞きし、入居にいたる経緯や背景を把握して相談に乗っている。始めは出来るだけ多く連絡を取っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要なサービス内容の確認をご家族と話し合い要望に答えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 何かしらの役割分担をしてもらい協働生活が出来る様努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との連絡を密に取りながら相談をして、協力が出来る様支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お友達や身内の人達の面会やふれあいを大切にしている。 (外部評価) 日常的に来訪の家族の他、兄弟や孫、友人の面会を大切に対応している。ドライブで馴染みの場所に立寄ることもある。身内の結婚式や葬式に家族同伴で参列する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや行事等への積極的な参加を促し、笑いが絶えない様配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思疎通の困難な利用者が多いが出来るだけ思いを汲み取れる様努めている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は入居時の情報、日々の暮らしの中での声かけやそぶり等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活歴や趣味、嗜好の把握に努め職員間の話し合いに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の身体機能に合わせ、毎日書いている日記を元にその人の思いを把握する様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族や本人と共に、月二回のミーティングで介護計画の改善や見直しを行い情報の共有をしている。	
			(外部評価) 家族、計画作成担当者、介護主任で立案の介護計画を2週間に1回のミーティングで職員が話し合い、ふりかえり、修正している。利用者の状況が変化した時は、随時計画を変更し、状況に変化がなくても6か月に1回は見直している。計画のコピーを個人記録に綴じ、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア日誌や申し送りノートに気づいた事を細かく記入し、見直しの情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の支援が困難な時は出来るだけ支援をし相談に乗っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公民館や民生委員さんなどの協力を得て、お互いに協力体制を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との関係を重視しながら、月に一回定 期受診をすると共に、必要に応じて病院受診もして いる。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。かかりつけ医には月に1回は受診し、健康管 理を行っている。協力歯科医は、必要時、往診をして くれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病状の変化や異変に気づいた時は申し送りノートや 日誌に記入し改善している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の看護師や相談員とも連絡を密に取り合い、 状態の変化や情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の要望を良く聞き、事業所で対応出来る事は 出来る限り行っている。 (外部評価) 重度化や終末期については早い時期から本人・家族と 話し合っている。ホームは家族等が希望すれば重度化 や終末期の対応は可能であり、看取りのマニュアルも 作成している。看取りにあたっての職員の勤務状況や 家族との関わり等の細かい取り決めが十分とはいえない。	重度化や終末期に職員はどこまで支援するか見極め、 夜間の勤務体制やユニット間の助け合い、また、家族 の関わりにどう取り組み、家族が宿泊の場合の諸々の こと等、職員も参加しての話合いで取り決めることを 期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 病気の急変や異常時は早めの病院受診を行ない対応している。ミーティングにおいて勉強会をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回の消防や避難訓練を真剣に行ない、民生委員さんにも協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っている。夜間想定でも行い、災害に備えての備蓄もしている。訓練時、元消防団員の民生委員の方が参加しているが、地元の人の実践的な協力体制は築かれていない。	いざという時、職員だけでの避難には限度があり、近所の人の実践的な協力が望まれる。運営推進会議で災害時に地元の人との協力体制が築けるような話し合いを行ったり、民生委員の方から近隣の人に働きかけていただく等、実践的な支援が得られる方策を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴にて対応している。言葉掛けにも充分注意している。 (外部評価) 職員は一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な声かけをしている。食事の食べこぼしをさりげなく片づけたり、食後の歯磨きを小声で促す等、利用者の誇りを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 心理的な不安から来る心理症状を良く聞いてあげて少しでも喜んで貰える様、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などは、ほぼ決められた時間に行っているが、散歩やレク等は各個人に合わせて行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 要望があれば化粧やエステ、理容を希望者は行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事をし、少しでも役割分担の出来る方にはお手伝いをしてもらっている。 (外部評価) 食事は業者が作ったものを温めたり、彩りよく盛り付けて提供している。茶碗、湯呑、箸等は利用者の使い慣れたものを使用し食事を楽しんでいる。職員は利用者の出来ることを尊重し、食事に時間がかかっても見守り、一緒に食卓を拭いたり、下膳する等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表に記入し足りない事が無い様に充分把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後職員が付いて口腔ケアを行ない清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 随時のトイレ誘導に心掛けてはいるものの自立しているとは言えない状況になっている。	
			(外部評価) 時間を決めて、トイレ誘導をしている。おむつは使用しないで、必要時、リハビリパンツを使用し、夜間等はパットを組み合わせる等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取には気を付けているが、運動量としてはまだまだ足りてない様に思われる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一日おきに入浴を実施して清潔に努めており、利用者の希望を取り入れている。	
			(外部評価) 週に3回は入浴できるよう支援している。毎日入浴を希望する利用者にはその希望に沿って対応している。利用者の介護度が進みホームでの入浴が困難になった場合は隣接の同系列の小規模多機能施設でリフト浴をすることになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の身体状況に合わせて休んでもらい、居室やソファで休息を取ってもらって居る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の作用や副作用について注意深く指導しており、間違いが無い様、心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) エステ、手芸、マッサージ、ドライブやリハビリなど少しでも気分転換が出来る様、支援に取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ドライブや散歩等その季節に応じた外出支援を行っている。	
			(外部評価) ホーム周辺の小道を散歩したり、近くの学校や海に行ったり、ドライブで出かけたりしている。行事でお花見に行ったり、外食で出かける等の機会もある。玄関口には椅子があり日向ぼっこを楽しむことが出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物支援やドライブなどの時は自分のお金を使って買物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば電話や手紙、年賀状の出す支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには季節感が感じられる様、配慮されている。衛生管理には気を付ける様、努めている。	
			(外部評価) 居間、食堂は明るく、ゆったりしていて、見やすい時計、カレンダー、絵画があり、行事の写真や利用者の作品等を飾り、くつろげる雰囲気がある。浴室やトイレは清潔感があり気になる匂いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の踊り場や食堂にソファを置いて、利用者同士仲良く会話や過ごせる様に工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室の中はご自分で好きな様に物を配置していただいている。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたテーブル、小ダンス、テレビ、衣装ケース、時計、鏡等を持ち込み、家族写真や利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺り等がいたるところに配置されており、リハビリや歩行練習に役立っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPOケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7番50号
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の心理症状が無くなり、穏やかに落ち着いてのんびりと暮らせる施設作り心掛けています。利用者様の残存能力を活かし、出来る事は自分で行ない、出来ない所の部分だけをお手伝いしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「ふつうのことを、ふつうに」をモットーに、利用者の思いを尊重しながら、利用者の出来ないことを手伝う支援をしている。また、ホームは小学生が訪れて利用者とは過ごしたり、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの夏祭りに婦人会が参加して共に楽しんだり、時には利用者が公民館活動や小・中学校の行事に参加する等、地域交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ひだまり

記入者(管理者)

氏名 黒瀬 俊三

評価完了日 22年7月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ふつうの事をふつうにの事業所理念を職場に掲載し、日々実践に繋げ、共有している。	
			(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく、ふつうに暮らせることを支える理念である。管理者と職員は、理念をホーム内に掲げて共有し、「ふつうのことがふつうにできる」をモットーに、日々の生活を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 行事などには地域の人達の協力を得て行っている。散歩等の時は積極的に挨拶を行っている。	
			(外部評価) 小学生が立ち寄り利用者と話をしたり、中学生が職場体験で訪れたり、ホームの夏祭りに婦人会の方が協力してくれる等の関係が出来ている。そして、利用者は地元の小・中学校の行事や公民館活動に参加する等、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域と共に協力し合い、認知症の理解に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議の中で情報収集や話し合いを行ないサービスの向上を目指している。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回、開催されている。ホームは行事や利用者の状況、職員の取り組み等を報告し、質問や意見が出されている。市の職員や民生委員からは介護や地域に関する情報が提供されている。会議での意見や情報をサービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村や包括支援センターとは密に連絡を取り合い、情報交換をして協力体制を取っている。	
			(外部評価) 管理者は利用者の手続きや申請で日常的に市に出向き、担当者と連絡を取り合っている。ホームの実情を伝えながら、相談に乗ってもらう等の関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 安全面を優先し玄関や入り口の施錠をやむを得ずしている。	
			(外部評価) 近くに道路や池があり利用者の安全を確保するため、やむを得ず玄関を施錠している。ベッドを柵で囲んだり、車椅子からの立ち上がりを阻止する等の拘束はしていない。職員は月2回のミーティングや毎月の研修会で拘束をしないケアについて話し合い、学びあっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングの時に虐待防止について皆で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において皆で話し合いの場を持ち検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をして疑問な所があれば再度詳しく説明をする。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来園や面会に来られた時にご家族様とお話し合いや説明をし、要望を聞いてそれを反映させている。	
			(外部評価) 利用者の要望は日常生活の中で聴いたり、察知することで把握し、家族の意見は来訪時や職員から利用者の状況を家族に報告する時等に掌握し運営に反映させている。苦情相談の窓口は内部と外部に分けて関係書類に明記し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日の業務の中で職員から要望があれば取り入れ、申し送りノートに書いて実践している。</p> <p>(外部評価) 職員は日々の業務の中、ケアに関すること、物品関連、勤務に関すること等の提案を行い、代表者や管理者はそれらの意見や提案を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職場環境としては物足りないが、一生懸命努力している者にはやりがいが持てる様支援をしていきたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設外研修を受ける時は有休とし、安心して研修が受けられる様、配慮している。月に一回は施設内研修も実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 夏祭りを通じて交流したり、施設内においても相互訪問を行ない質の向上に繋げている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 認知症の心理的症候を積極的傾聴により把握し、どのように対応して行けば良いか検討している。職員も連携を取りながらケアしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族さんが困っている事、悩んでいる事などを初回の面談にてお聞きし、ケアプランの作成や介護の実践に活かしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ニーズの把握に努め、必要なサービス内容の確認を行ない対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事も利用者と一緒にしない、コミュニケーションを取りながら馴染みの関係作りに努めている。利用者の尊厳と利用者を尊敬する事に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との連絡を密に取りながら相談をして、協力が出来るよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お友達やご家族の面会、ふれあいを大切にしている。 (外部評価) 日常的に来訪の家族の他、兄弟や孫、友人の面会を大切に対応している。ドライブで馴染みの場所に立寄ることもある。身内の結婚式や葬式に家族同伴で参列する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや行事等への積極的な参加を促し、笑いが絶えないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを通じて利用者の思いを把握し希望や意向に沿った介護をしている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は入居時の情報、日々の暮らしの中での声かけやそぶり等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人やご家族さんとの会話の中で、今までの生活歴や趣味、嗜好の把握に努め職員間の話し合いに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックや毎日書いてもらっている日記を元にその人の思いを把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) ご家族やご本人と共に、月に二回のミーティングで介 護計画の改善や見直しを検討し情報の共有を図って いる。	
			(外部評価) 家族、計画作成担当者、介護主任で立案の介護計画を 2週間に1回のミーティングで職員が話し合い、ふり かえり、修正している。利用者の状況が変化した時 は、随時計画を変更し、状況に変化がなくても6か月 に1回は見直している。計画のコピーを個人記録に綴 じ、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 気づきや改善点などを申し送りノートに細かく記入し 見直しの情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の支援が困難な利用者には出来るだけ支援し相 談に乗っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域や公民館、民生委員さんと共に協力し合い、認知 症の理解に取り組み、協力体制を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との関係を重視しながら、月に一回定期 受診をすると共に、必要に応じて病院受診にも連れて 行っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。かかりつけ医には月に1回は受診し、健康管 理を行っている。協力歯科医は、必要時、往診をして くれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病状の変化や異変に気づいた時は申し送りノートや日 誌に記入し改善している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院のスタッフとも密に連絡を取り合い、状態の変化 や情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の要望を良く聞き、事業所で対応出来る事は出 来る限り行っている。 (外部評価) 重度化や終末期については早い時期から本人・家族と 話し合っている。ホームは家族等が希望すれば重度化 や終末期の対応は可能であり、看取りのマニュアルも 作成している。看取りにあたっての職員の勤務状況や 家族との関わり等の細かい取り決めが十分とはいえない。	重度化や終末期に職員はどこまで支援するか見極め、 夜間の勤務体制やユニット間の助け合い、また、家族 の関わりにどう取り組み、家族が宿泊の場合の諸々の こと等、職員も参加しての話合いで取り決めることを 期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 病気の急変や異常時は早めの病院受診を行ない対応している。ミーティングにおいて勉強会もしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回の消防訓練や避難訓練を真剣に行ない、民生委員さんにも協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っている。夜間想定でも行い、災害に備えての備蓄もしている。訓練時、元消防団員の民生委員の方が参加しているが、地元の人の実践的な協力体制は築かれていない。	いざという時、職員だけでの避難には限度があり、近所の人の実践的な協力が望まれる。運営推進会議で災害時に地元の人との協力体制が築けるような話し合いを行ったり、民生委員の方から近隣の人に働きかけていただく等、実践的な支援が得られる方策を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴や排泄時も個別対応で行っている。言葉掛けにも充分注意している。 (外部評価) 職員は一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な声かけをしている。食事の食べこぼしをさりげなく片づけたり、食後の歯磨きを小声で促す等、利用者の誇りを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 心理的な不安から来る心理症状を良く聞き理解した上で、声掛けや要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などは、ほぼ決められた時間に行っているが、散歩やレク等は個別対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 要望があれば化粧やエステの利用を希望者は行っている。身だしなみについては利用者の希望を聞いている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事をし、おやつ作りや配膳、下膳のお手伝いは利用者も一緒に行っている。 (外部評価) 食事は業者が作ったものを温めたり、彩りよく盛り付けて提供している。茶碗、湯呑、箸等は利用者の使い慣れたものを使用し食事を楽しんでいる。職員は利用者の出来ることを尊重し、食事に時間がかかっても見守り、一緒に食卓を拭いたり、下膳する等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表に記入し、足りない事が無い様に充分注意してサービスの提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員がついて口腔ケアを行ない、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の失敗はあるものの、尿取りを使用してご本人の尿意、便意を尊重し、排泄の自立を目指している。	
			(外部評価) 時間を決めて、トイレ誘導をしている。おむつは使用しないで、必要時、リハビリパンツを使用し、夜間等はパットを組み合わせる等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量のチェックや把握に努め、気を付けているが、運動量は充分とは言えない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一日おきに入浴を実施して清潔に努めている。また利用者の希望にも答えている。	
			(外部評価) 週に3回は入浴できるよう支援している。毎日入浴を希望する利用者にはその希望に沿って対応している。利用者の介護度が進みホームでの入浴が困難になった場合は隣接の同系列の小規模多機能施設でリフト浴をすることになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も好きな時に居室で休息出来るよう配慮し、利用者の身体状況に合わせている。ベッドメイキングにも充分気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の重要性を理解してもらう為、病院の申し送りノートを活用している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) エステ、手芸、マッサージ、ドライブやリハビリなど少しでも気分転換が出来る様、支援に取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩やドライブ等の外出支援を行ない、季節を感じてもらっている。	
			(外部評価) ホーム周辺の小道を散歩したり、近くの学校や海に行ったり、ドライブで出かけたりしている。行事でお花見に行ったり、外食で出かける等の機会もある。玄関口には椅子があり日向ぼっこを楽しむことが出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物支援やドライブに出かけた時は自分のお金を使ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば電話や手紙、年賀状を出す支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フローアに季節感が出せるよう飾り付けをしたり、歌の歌詞を張ったりして気を付けている。	
			(外部評価) 居間、食堂は明るく、ゆったりしていて、見やすい時計、カレンダー、絵画があり、行事の写真や利用者の作品等を飾り、くつろげる雰囲気がある。浴室やトイレは清潔感があり気になる匂いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の踊り場や食堂にソファを置いて、利用者同士仲の良い者同士でくつろげるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 出来るだけ居室の中はご自分の好きな家財を置いている。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたテーブル、小ダンス、テレビ、衣装ケース、時計、鏡等を持ち込み、家族写真や利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺りやトイレを多く取り入れリハビリや歩行練習に役立っている。	